#### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

E 1 FIGURE POST ( 1 FIGURE V 2					
事業所番号	4093100131				
法人名	麻生介護サービス株式会社				
事業所名	アップルハート くつろぎ春日南				
所在地	福岡県春日市松ヶ丘4丁目1番				
自己評価作成日	令和3年12月14日	評価結果確定日	令和4年6月1日		

#### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action kouhyou pref search keyword search=true

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス					
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp			
訪問調査日	令和4年1月21日					

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキ-+enterで改行出来ます)

入居者様の残存機能を十分に生かし、生活の中で活気あるサービスの向上を常に考えています。弊社に来られた時、車いすだった方も今では杖歩行をされています。オープンして半年でまだまだ、起こされた課題が沢山ありますが、笑顔が絶えず、安全で安心して暮らして頂けるよう支援しています。 コロナウイルス感染症予防対策の為、制限していることが多いです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アップルハートくつろぎ春日南」は平成29年開設の2ユニットの事業所である。2階建ての建物で住宅街の一角に位置し、近隣には公園、公民館があり、地域の方との交流も図れる環境にあり、コロナ禍前は保育園児の訪問等もあった。母体は福岡県全域で福祉事業を総合的に展開している。同グループ内の訪問看護との連携もとれており、医療の協力体制も整えられている。コロナ禍で思うような外出ができないなかでも、利用者の方の状態を見て毎日1~2回程ラジオ体操を取り入れる等して運動、体操に力を入れており、入居時よりも歩行状態が改善された利用者もいる。家族等の面会は制限中だが、オンラインや玄関でのシート越しでの面会を行う等工夫を凝らし、顔を見て交流できるよう努めている。外出や行事等制限の多い中職員は利用者の方がこれまでの日常生活が送れるように支援を行っており、今後も発展、また、地域福祉での中心となり活躍が期待できる事業所である。

٧.	. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
	項目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印		
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,21) 0 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:20,40)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	— 66 域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2.22) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない		
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	O 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係   1. 大いに増えている   2. 少しずつ増えている   2. 少しずつ増えている   3. あまり増えていない   (参考項目:4)   4. 全くいない   4. 全くいない		
	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	8 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 2. 職員の1/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 0 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満		
	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお		
	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自	己評	価および外部評価結果			
自	自外		自己評価	外部評	価
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	国会に	- こ基づく運営			
	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	当事業所は地域との結びつきを重視し、お客様が安心して日常生活を送ることが出来るようにその目標を設定し、お一人か一人の人格を尊重するととはに計画的に認知症対応型共同生活介護のサービスを提供するものとする。事業所の理念「お客様の暮らしを明るく!介護の仕事を楽しく!」を玄関・事務所に設置し、理念の共有・実現に向け日々職員全員で取り組んでいる。また、法事理念を名刺サイズにまとめた物を全職員が持つている。	法人理念を基に、職員皆で話し合い事業所独自の理念があり、玄関、各ユニットの事務所に掲示し常に職員の目に触れるようにされている。法人理念もカードサイズにした者を名札の裏入れ常に携帯している。月1回のミーティング時に理念について話し合い、唱和も行っている。年2回職員個別面談の際に理念に基づいた個人目標を定め振り返りも行っている。職員全員で理念の共有を図り、実践に努めている。	
2	(2)	流している	後は、水流が緩和され次第、事業所として地域の行事にも積極的に参加し、また、利用者様の外出も同様に、事態が緩和されれば、今後は、外出の機会を増やし地域にも貢献して行きたいと考えています。	用で交流を図る等工夫して地域との繋がりに努めている。今後、地域の回覧版に事業所の取り組みなどを載せてする。そのできる。	公民館だよりに事業所の取り組みなど載せてもらい、認知症に関しての話等ができたらと考えているため、ぜひその実現に期待したい。また、近隣病院との交流も継続的に行われることが望ましい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	自治会長様には運営推進会議を通じて、施設の 状況をお伝えしており、今後は、施設のご利用者 の状況をお伝えする事により、それが地域の 方々への助けになる事を願っている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、運営推進会議の議事録送付の際、評価についても報告し、ご利用者のご家族からも五丈原を賜りながら、改善点を見出すように努力しています。	現在は事業所内で職員のみで2ヶ月に1回運営推進会 議を行っており、議事録をこれまで参加頂いていた自 治会長、市職員、地域包括、家族などに郵送してい る。ファックスで返信できる用紙を同封し、意見や情報 等を頂けるよう工夫し、実際にファックスでの返信を頂 いている。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	め、个明な点は速やかに相談を行っように心がけ  ・・・・・	管理者交代に伴い、その都度、市や地域包括に電話 や訪問にて相談を行っている。介護保険認定の申請 はケアマネジャーが市へ訪問し行っている。不明な点 や事故報告等随時行うことにより、常に協力関係を築 くように努めている。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め て身体拘束をしないケアに取り組んでいる	を実施しています。また毎月の事業所会議においても、身体拘束の事業所における現状や、今	福岡県身体拘束ゼロ宣言をしており、原則身体拘束しない方針であり、毎月の定例研修で管理者中心となり利用者の現状についての話し合いを行っている。研修参加職員は日々の業務を振り返り、自身でまとめを行い報告書を提出し、身体拘束の理解を深め、知識の向上に努めている。玄関はセンサー管理し、職員見守りで対応しており離設もない。	

1

自	外	_	自己評価	外部評	im i
目岩	部	項 目	実践状況	実践状況	ァー 次のステップに向けて期待したい内容
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所において、定期的な研修や事案検討を 行っており、虐待がお客様に与える精神的影響 などについても周知しています。事故報告におい ても、どんな些細なものでも発生時、速やかに本 社、行政(必要時)に報告を行っています。		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	入社時の導入研修や、定例研修でも行っています。 す。	現在、制度利用者の方はいない。職員は研修により制度の理解に努めており、入社時には本部職員対応により研修行っている。制度利用が必要になった方がいる場合は法人本部に相談できる体制あり、パンフレット等も準備されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約内容の説明を行い、内容についてご家族様のご理解を頂いた上で契約締結を行っております。また、内容が変更になった場合についても文書でご説明しご納得を頂いております。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ご家族からの意見や要望は意見箱の設置、また 運営推進会議でも伺うようにし職員全員への共 有を行い、サービスに反映するようにしていま す、また、本社にもお客様相談室を設置していま す。	現状をお伝えしており、議事録郵送時に同封するファックスで の返信用紙や電話等で家族からの意見や要望を聞いてい スール」 ボーでけなるが、対西での両会も行っており、その教	意見箱は設置してあるが、意見が入っていない 状況であり、もっと気軽に簡単に意見箱が利用 できるように毎月のお便りに一筆箋のような用 紙を同封し、訪問時に入れられるように工夫さ れてみてはどうだろうか。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の事業所会議で、社員の意見や提案を聞き取りし、本社マネージャーの参加もあるので、持ち帰って頂いている。また、日常的に電話・メールで相談をしている。年に2回の管理者との個別面談でも、意見が上げられている。	月1回のミーティングは原則職員全員参加により行われており、職員は意見や提案、要望等言いやすい環境である。日頃より管理者等へも意見が言いやすく、改善できること等は速やかに実現できるように取り組まれている。	
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	各々の社員の「資質向上計画書」を基に、社員1 人1人に目標を持ってもらい、実践できる環境作 りに努めている。人事面、給与面等についてはカ ンファを定期的に行ない、働き易い職場環境を目 指します。		
13		〇人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用に あたっては性別や年齢等を理由に採用対象から 排除しないようにしている。また事業所で働く職員 についても、その能力を発揮して生き生きとして 勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保 証されるよう配慮している	排除しないようにしている。また事業所で働く職	30~60歳代と幅広い年齢層方が勤務されており、男女比は1:3程度となっている。職員同士のコミュニケーションも良好であり、職員それぞれの得意分野も活かされ、業務もスムーズに行われている。事業所からの研修案内等あり、自己研鑽の機会も設けられており、職員の方はいきいきと勤務されている。休憩室や休憩時間も確保されている。	

2

自	外	- <del>-</del> -	自己評価	外部評	面
巨	外部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		〇人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権 を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓 発活動に取り組んでいる	本社主催の導入研修にて人権・プライバシー保護についての教育指導を行っている。また、グループからの不適切事例等の情報を申し送りノートや事業所会議を活用し、共有している。また、事業所内でもお客様の人権を尊重するように日々指導している。	法人本部の研修担当課による年間計画より定期的に、人権擁護に関する研修を行っており、人権に対して意識向上を図っている。利用者への声掛けや対応等日頃より職員同士で注意しながら配慮に努めている。直近で管理者が福岡市主催のユマニチュード研修にズームで参加しており、今後のミーティング等で職員全体での共有を予定している。	
15		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている			
16		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	他GHと地域運営推進会議に参加し合い、ネットワーク作りを行っている。また、今後は、近隣病院の勉強会や交流会にも積極的に参加していきます。		
II .5		:信頼に向けた関係づくりと支援			
17		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者、担当社員にてご本人への聞き取りを行っている。安心して相談できる関係作りに努めている。笑顔でコミュニケーションをとるように心がけている。		
18		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	面会に頻回に来て下さるので、常に現状報告を 行っています。また、月に1度新聞を作成しお手 紙を添え気づいた点をお伝えしています。		
19		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	情報収集後はアセスメント・評価を行い、社員間で状況共有を行っている。その時のご本人様に必要なものを明確にし、ケアプランに反映し、ご本人様・ご家族様へ説明を行っている。		
20		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お1人お1人出来る所をお手伝い(食事作り、洗濯、掃除等)して頂き、お客様と社員が共に助け合いながら作業し、日々の日課を行っている。		
21		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時には毎回日々の出来事などをお伝えしている。毎月お手紙にて行事をお伝えし、参加して頂いている。個別外出、受診なども必要に応じて同行し対応するようにしている。		

3

自	外	-= D	自己評価	外部評価	西
自己	外 部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			昔から通われている馴染みのかかりつけ医への 受診を継続して支援している。また、聞き取りした 情報からご本人のなじみの場所などに外出支援 を行っていきます。	コロナ禍前は昔の友人の訪問があったり、馴染みの美容室に行くなどできていた。現在は面会制限等あるため、日頃の生活の中でよく行った場所を聞いたり、住んでいた場所を聞いたりして、車で自宅の前を通ったり、よく行った場所へドライブする等個別でできる限りの対応を行い、馴染みのある場所等との関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている			
24		の在週をフォローし、相談や又抜に劣めている	過をフォローし、相談や支援に努めていきます。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン			
25		〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	生活歴、暮らしの情報など日々ご本人様より聞き取り、お1人お1人のご希望、ご要望に柔軟に対応している。	入居前に管理者、ケアマネジャーが自宅訪問等で本人、家族の意向の聞き取りを行っている。又、日頃より、利用者の方との日常会話等の関わりの中で気付きを見つけ、意思疎通や伝達が難しい方に対しては表情や仕草等観察し、思いや意向の把握に努めている。現在は独自のアセスメント表を使用し、ケアマネジャーが記録している。来年度よりアセスメント表は変更予定である。	
26		33 C C C C C C C C C C C C C C C C C C	お1人お1人生活歴や馴染みの生活習慣、環境 等をご本人様・ご家族様から聞き取りを行い、趣 味活動や嗜好品など取り入れています。又、ご家 族やケアマネジャー様に今までの経緯をお聞きし 把握しています。		
27		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	業務日報、ケース記録、申し送りノートを活用し、 社員間での情報共有に努め、日々臨機応変に対 応し、出来ない所のお手伝いに留めている。		
28		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	事業所会議や担当者会議にてにて社員に意見・ 提案を聞き、ケアマネ・計画作成担当者・担当社 員・社員全員でその時に合ったプランを作成して いる。	ケアプランはケアマネジャーが担当者会議やカンファレンスで本人や家族、職員に聞き取り行い、主治医や看護師等の関係者にも意見をもらい作成している。プラン目標ごとに毎日の実施チェック表あり、職員全員でプランの共有も図っている。モニタリングは担当職員が利用者の方の日々の状況みて行っている。	

白	外	_	自己評価	外部評	而
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	
29		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている			
30		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ハーに行つにり、病院支診したりと外出文法を 行っていきます。		
31		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32		〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	昔から通われている馴染みのかかりつけ医への 受診介助を行っている。また、医療連携にて訪問 看護を週に1回受け、何かあればかかりつけ医へ 申し送る体制を整え、適切な医療を受けていただ けるように支援している。	3つの医療機関と提携しており、利用者の方はいずれかの医療機関を利用、24時間体制であり、月2回の訪問診療を受けている。同グループの訪問看護との提携もあり、週1回訪問により日常的な健康管理が行われている。皮膚科や眼科への受診も家族との相談により職員が受診同行し、結果を家族へ報告、職員申し送りノートで情報の共有も図っている。	
33		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	施設看護師や訪問看護の看護師に日々相談し、 お1人お1人必要な専門医への受診介助を積極 的に行っている。		
34		関係者との情報交換や相談に努めている。ある いは、そうした場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	入院される方がおられたときは、施設看護師や 訪問看護の看護師、訪問診療医の協力の下、特 別看護指示書など活用し、早期の退院に繋げて いきます。緊急受け入れ先病院の勉強会にも参 加するように致します。		
35		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	17 アが山木の体制を作り、ナームで山木の限りの	これまでに2名の方の看取りを行っている。入居時に家族に看取りに関する説明を行い、事前に同意書を記入して頂いている。重度化に際し再度家族への説明をし意向の確認を行っている。看取りに関する研修も定期的に行っており、職員全員が知識を深め、その都度対応できるように努めている。	

5

自	外		自己評価	外部評価	
Ξ	外部	項目	実践状況	実践状況	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている			
		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の指導の下、避難訓練を年2回定期 的に実施致します。	年2回(内1回は夜間想定)避難訓練を行っている。以前は自治会長に訓練日時を伝え、参加も頂いていた。 備蓄物として水や非常食等準備しており、地域の方が 避難されてこられても対応できるよう、多めに備えてい る。防災マニュアルもあり、現在、本部でBCP(事業継 続計画)策定中である。	今後、地域での防災訓練への参加もしようと 思っているため、地域との交流制限緩和の際に はぜひ実現できることを期待したい。
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴・職業歴からお1人お1人に合った 自尊心を傷つけない様な声掛け・介助に努めて いる。入社時の導入研修にて接遇マナー研修を 受け、年間研修計画にも盛り込んでいる。また、 月一回の事業所会議でグループ内で起きた不適 切事例を挙げ、共有している。	日頃より、利用者の方に対しての声掛け等に配慮しており、接遇マナーや個人情報保護、プライバシー保護においては定期研修を行っている。また、日頃より職員同士で気付いたその都度注意し合う等行っている。 写真利用等に関しては入居時に家族や本人に説明し同意を得ている。	
39		〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	日常生活での決定権はいつもお客様にあり、拒 否時に無理に参加を強要していない。家族のよう な関係作りに努め、何でも言って頂ける様に寄り 添い生活している。ご希望には柔軟に対応してい る(外出・嗜好品など)。		
40		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間は特に決めておらず、個々に眠たくなってから居室に戻られている。また、定期的にお客様の希望に応じた買い物など、外出支援を積極的に行っている。		
41		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	ていないところは、お手伝いをしております。		
42	' '	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	昼食や夕食の準備はお手伝いをして頂いています。食事レクレーションは皆様が食べたいものをお聞きして、一緒に作り、後片付けの作業を行っております。	三食とも調理済みの食材配食を利用しており、御飯、 汁物は事業所内で調理している。利用者の方は食器 洗いや皿拭き等できることを手伝ってもらっている。誕 生会等ではケーキを一緒に作り、利用者の方に果物 を切ってもらうこともある。好みなどは家族や本人に事 前に聞き取り行い職員は把握している。	

6

自	自 外		自己評価	外部評価	面
自己	外 部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	カロリー計算されているバランスの良いメニューを業者から仕入れている。嚥下能力に合わせた 食事形態への変更も可能。日々水分量をチェック し、飲水制限のある方にも対応しており、嗜好に 合わせた副食も準備している。		
44		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後口腔ケアをご自身の力で行い、社員は出来ない所のお手伝いに留めている。定期的に訪問歯科診療があり、管理指導を受けている。		
45		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	し、排水・排使コントロールに劣めている。	2ユニット統一された排泄チェック表を使用し、1枚で利用者の方全員分の排泄状況が把握できるようになっており、個々の排泄リズムで声掛け誘導を行っている。できるだけトイレでの排泄を促し、高齢によりパッドやオムツ使用の改善につながることは少ないが、職員間で情報を共有し少しでも改善できるよう支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排便コントロールに努めている。また、もろもろチェック表を活用し、水分量の確保に努めている。		
47		〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、1日おきにお1人30分ほどかけて 入浴して頂いているが、希望があれば毎日の入 浴も可能。また、季節に応じた入浴剤など使って いる。無理強いせず、その日に気分が乗らない 方は翌日に入浴して頂いたり、臨機応変に対応 している。	週2、3回昼前後の時間帯に入浴している。個浴で、その都度、湯は入れ替え、足ふきマットの交換も行っている。石鹸、シャンプー等も持ち込みでき、入浴剤は2種類から選べ、季節湯なども行っており、入浴時間を楽しんで頂けるよう努めている。職員は皮膚や身体観察を行いつつ、コミュニケーションも心掛けている。	
48		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日、お1人お1人の状況・顔色等、気付きを大切にし、日中でも居室にて休んで頂く声掛けを行っている。夜間、安心・安楽に休んで頂くために調光・室温調整に努めている。夜間は声掛けのトーンを抑えている。		
49		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	皆にも、楽の効果等の共有している。誤楽防止 の為、薬セットはダブルでチェックし行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お1人お1人の出来る力に応じ、日課で役割(洗濯、掃除、食事作り)を持って頂いている。		

7

白	外		自己評価	外部評価	価
目包	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している	日常的に買い物や散歩に出かけている。また、 ユニットごとの全体外出を考え、お客様のご希望 により職員同伴の外出も可能です。	これまで、近場のホームセンターへ買物等で外出していたが、コロナ禍にある現在は、行くことができず、また、ユニットごとでの外出もできていない。できるだけ人のいない所へ個別で対応し、外出できるように努め、近隣の公園を散歩したり、ドライブ等での外出を行っている。	
52		でおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理が困難な方は少額をホームにで管理し、外出時のみお渡しし、可能であればお客様に支払いをして頂くようにしています。		
53		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	かってきたこ及人やこ家族からのお電話を取りついでいる。		
54		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内共用部分の温度差が無いようにし、音が混在し不快で混乱されないように気を付けている。 夜間、調光もこまめに行っている。また、夜間は声掛けのトーンを抑えている。	2ユニット同じ造りになっており、掃除も行き届き、清潔に保たれている。リビング中心にテーブルが置かれ、食事だけでなく皆で音楽を聞いたりして過ごすことができ居心地のいい空間となっている。ソファの配置もあり、ゆっくり座って過ごすこともできる。感染症対策として換気しながらも、利用者の方が暑い寒いがないよう温度管理にも配慮されている。	
55		用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	お一人になりたいときは居室で休んで頂いています。孤立しないようにある一定の時間にお声かけをしております。くつろぎの場は、テレビの前にソファーを置いていますので、そちらでゆっくりくつろいで頂いています。		
56		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相 談しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	方もいらっしゃる。	各居室がリビングに面するように配置され、ドアには 小さなのぞき窓がつけられ、見守り等できるようになっ ている。居室内にはベッド、クローゼット、エアコンが備 え付けられており、机やタンス、テレビ等使い慣れたも のを持ち込まれ、利用者の方が落ち着いて、穏やかに 過ごせるように工夫されている。	
57		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	なるべくご自分で行きたい時にご自分の力でトイレに行けるようにしています。安全を確保しつつ、独歩できるような空間作りを心がけている。		

8